

「西八千代地区の小学校新設に係る説明及びご意見を伺う会」（4月）の開催結果について

令和5年3月に「西八千代地区の小学校新設に係る説明及びご意見を伺う会」を2回開催させていただきましたが、4月にも同じ内容で2回開催いたしました。全4回で計245名の方々にご参加いただき、様々なご意見をいただきましたので、お知らせいたします。

1 開催日時等

【3回目】令和5年4月21日 午後 7時～ 8時（於：緑が丘公民館）

【4回目】令和5年4月29日 午前10時～11時（於：みどりが丘小体育館）

※対象：新木戸小通学区域・みどりが丘小通学区域にお住いの令和5年度新小学1年生・未就学児の保護者様、地域の皆様（両日とも）

2 事務局説明の概要

緑が丘駅周辺の急速な開発により、児童生徒数が急増していることから、令和3年度末に「睦及び高津・緑が丘地域児童生徒数推計業務」を業者委託したところ、みどりが丘小学校と睦中学校において、将来的に教室数が不足する見込みとなった。八千代市ではこのことを市全体の課題として認識し、副市長を長とし、関係部長で構成する「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」を発足し、全庁的な視点で対策を検討してきた。ピークを迎える時期が早く、対応が急がれる小学校を優先して協議を重ねた結果、西八千代地区内に小学校を新設する方針を定めた。新設する小学校は、みどりが丘小から分離する「みどりが丘小の分離新設校（以下「分離新設校」という。）」とし、令和8年4月開校を目標に準備を進めている。なお、学区は検討中であり、現在のところ「緑が丘西1丁目6～17番地、緑が丘西2丁目（「シティハウス八千代緑が丘」含む）、みどりが丘小学区の吉橋」を候補に挙げ、検討をしているところである。

3 主な質疑応答等

参加された方々からいただいたご質問とその回答を紹介いたします。同様の内容等については、まとめて要約したものを掲載しています。

【分離新設校の設置について】

Q 「建設候補地は7,000㎡で、東京都の都心にある小学校のようなイメージ」とのことだが、みどりが丘小や新木戸小と比べると狭い印象を受ける。分離新設校はどの程度の広さと受け取れば良いのか。

A みどりが丘小や新木戸小と比べると建設候補地の敷地は限られてはいるが、現時点では、必要な数の普通教室、特別教室、グラウンド等は確保できる見込みである。

【通学区域・通学路について】

- Q みどりが丘小から分離新設校に移動する時、それまでにできた友達や先生方との関係性が途切れることを心配している。開校時に全員が一斉に移動とのことだが、何か措置はないのか。
- A 現在の推計を基にすると、分離新設校の学区の候補として示した「緑が丘西1丁目6～17番地、緑が丘西2丁目（シティハウス含む）、みどりが丘小学区の吉橋」の児童に一斉に移動していただかないと、みどりが丘小の保有教室数には収まらない見込みである。しかし、令和8年度に6年生になる子供たちにとっては、残りがあと1年間しかなく、修学旅行等の行事があるのに友達と別々の学校になる等のことが生じることは承知している。今後の児童数の変化にもよるが、このことについては改めて検討していく。
- Q 通学路について、車の往来や歩道の狭さが気になる。横断歩道や信号機、裏門の設置等は検討しているのか。
- A 通学路の安全の確保は、当然重要なものと考えている。今後、通学路に必要な対応について、警察や県等の関係機関と十分協議・検討をし、子供たちの安全確保に努めていく。

【学校運営等について】

- Q 分離新設校は、「最新の教育方針がある」、「みどりが丘小学校と同じ行事を一緒に行う」等、ぜひ子供たちが行きたくなるような学校にしてもらいたいがどうか。
- A 「魅力のある学校」と考えたときに、施設・設備のハード面と、学校運営のソフト面の双方を考える必要がある。分離新設校に通う子供たちが喜んでもらえるような学校を目指していきたいと考えている。
- Q 学校行事は、分離新設校と近隣の学校とで合同で行うのか。また、どんな学校運営を考えているのか。
- A 例えば「みどりが丘小や新木戸小と連携して行事を行う」、「近隣の学校にグラウンドを借用して実施する」等、様々な運営方法が考えられる。過去に、市内に小学校を新設した際には、開校の2年程前から準備委員会を立ち上げて運営方法等を整えた。今回も同じように協議を進め、定めていくようになると考えている。また、西八千代地区には「地域学校協働本部」が立ち上がっているので、この組織の機能を生かし、近隣校と交流しながら教育環境を整えていくことも考えられる。

【その他】

- Q 「分離新設校」とはどのような意味か。
- A 「みどりが丘小学区から一部の地区を分離し、その分離した地区の児童が通う『新しい小学校』』という意味合いで、「分離新設校」という言葉を使用している。

Q 「分離新設校は半永久的な学校にはしない」とのことだが、跡地はどのような利用方法を想定しているのか。

A 現在の推計値を基にすると、分離新設校の設置期間は15年から20年程度になると見込んでいる。建設候補地は借地の予定であるため、跡地の具体的な利用は考えていない。

Q 建設候補地は、いずれ市街化区域になると聞いている。また、人口ビジョンが4月に改訂され、緑が丘西地区の想定人口が上方修正されている。そもそもこの地区は令和3年度に学区変更で対応し、そこから2年程しか経っていないのに分離新設校を造ることになったので、住民として不安を抱く部分がある。マンションの計画はある程度事前から予測できないのか。また、今回の推計の精度も含め、どの程度の誤差が起きうるものと考えているのか伺いたい。

A 推計報告書では、西八千代地区の傾向等も考慮した上で、予測人口を上乗せして試算している。現時点ではこの推計値を基に進めているところだが、今後の社会情勢の変化は人口動態にも影響することが予想されるため、引き続き情報収集に努め、対策を取っていきたいと考えている。

Q なぜこの地区に中学校がないのか。

A 以前は、緑が丘西地区の人口はあまり増えず、子供の数もそれほど増えなかった。この状況を踏まえ、当時の推計値を基に総合的に検討した結果、中学校の予定地は確保しなかったものと考えている。中学校に係る対応については、今年度の「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」で集中的に議論し、方針が定められるよう検討していく。

Q 教員不足のニュースを目にするが、分離新設校に教員が足りないということにはならないか。

A 新しい学校として設置するので、県のルールどおり、校長や教頭をはじめ、必要な教職員が配置されるものと考えている。

Q 新木戸小は老朽化が進んでいるように感じる。分離新設校の設置は、新木戸小の改修工事に影響はないのか。

A 今後、計画的に学校の長寿命化改修を進めることになっており、新木戸小についても実施してまいりたい。

たくさんのご意見をいただきありがとうございました。いただいたご意見は、「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」に報告をさせていただき、貴重な検討材料とさせていただきます。